

10月8日(祝)
13:30~16:30

[会場] コラッセふくしま 4F
多目的ホール

大会記念 公開シンポジウム **入場無料**

「**ふくしまへの帰還と再生**」

東日本大震災の発生から1年数ヶ月が過ぎました。福島県は地震・津波、原発事故によって、いまだに県内外に約17万人が避難生活を余儀なくされています。被災者の多くは、生活再建もままならず見通しの立たない状況にあります。さらに放射能汚染によって、ふるさとの再生も一筋縄ではいかない状況を抱えています。そうした点を踏まえ、人々の暮らしを再建する「人間の復興」をめざし、かつふるさとの再生に向けた課題とはなにかについて考えていきます。

特別講演

テーマ 「**ふくしまへの帰還と再生**」



復興大臣 **平野達男氏**

参議院議員 復興大臣・東日本大震災総括担当
昭和29年5月2日岩手県北上市出身、昭和48年3月岩手県立水沢高等学校、同52年3月東京大学農学部農業工学科を卒業。昭和52年農林省に入省。東日本大震災復興対策担当・内閣府特命担当大臣(防災)内閣府副大臣(国家戦略等)担当 予算委員長、農林水産委員長を歴任。



福島県知事 **佐藤雄平氏**

[学歴] 昭和35年3月 福島県南会津郡下郷町立旭田小学校卒 / 昭和38年3月 福島県南会津郡下郷町立旭田中学校卒 / 昭和41年3月 福島県立田島高等学校卒 / 昭和45年3月 神奈川大学経済学部卒
[公職経歴] 昭和58年12月 厚生大臣秘書官 / 平成6年1月 衆議院議員政策秘書 / 平成10年7月 参議院議員(2期) / 平成10年9月 国土開発新幹線自動車建設審議会委員 / 平成12年8月 決算委員会理事 / 平成13年9月 参議院沖縄及び北方問題に関する特別委員会委員長 / 平成16年8月 参議院国土交通委員会理事 / 平成18年10月 参議院予算委員会筆頭理事 / 平成18年11月 福島県知事 / 平成22年11月 福島県知事(2期目)(任期 平成22年11月12日~平成26年11月11日)

来賓挨拶

●コーディネーター



鈴木 浩氏

福島大学名誉教授・明治大学客員教授
1944年生。1967年東北大学工学部建築学科卒。設計事務所勤務後、ロンドン大学などを経て、1990年福島大学行政社会学部教授。福島県復興ビジョン検討委員会座長や浪江町復興検討委員会委員長を務める。

●パネリスト



馬場 有氏

浪江町長
浪江町町議会議員、議長を経て、平成15年に福島県議会議員に当選。その後、平成19年12月に浪江町長に就任し現在2期目。町長を務める浪江町は、福島県の最東端に位置し、原発立地町ではなく財政的に恵まれなかったものの、日本テレビのタッシュ村が所在する自然豊かな海、山、川と自然と人の和に恵まれた町であった。住民協働によるまちづくり取り組み中、東日本大震災、原発事故が発生。3月11日の震災発生から現在に至るまで、第一線で震災・原発事故対応にあたっている。



迫田朋子氏

日本放送協会 制作局 エグゼクティブ・ディレクター
1980年、東京大学医学部保健学科卒。アナウンサー、解説委員(医療、介護、福祉、市民活動などの分野を担当)をへて、現職。阪神大震災時にはETV特集「災害医療」、ラジオ第一「震災の街角から」などを制作。東日本大震災直後は、「福祉ネットワーク」「あざイチ」で震災関連番組の放送に携わる。現在は、NHK震災プロジェクトで「復興サポート」の制作にかかわっている。



平野祐康氏

三宅村前村長
東京都三宅島生まれ。3度の噴火を経験。三宅村役場にて33年間行政職員として勤務。2000年の噴火による全島避難後は、復興調整担当課長として前村長を補佐する。2004年2月の村長選にて初当選。帰島実現に向けて陣頭指揮を執り、翌2005年2月には帰島を実現し、島の復興にあたった。東日本大震災発生後は、三宅島の教訓を伝える講演活動を福島県内で行っている。



天野和彦氏

福島大学 うつくしまふくしま未来支援センター 特任准教授 / 富岡町生活復興支援「おだがいさまセンター」センター長
東日本大震災において、2500名を超える被災者を抱え、県内最大規模といわれた「ビッグパレットふくしま避難所」の県庁運営支援チームの責任者として運営に携わる。平成24年4月より現職。仮設住宅・借り上げ住宅・県外避難の支援の仕組み構築とその水平展開、被災者の生活支援、コミュニティ形成、要援護者サポート、ボランティア組織との連携などの調査・研究や現場での支援にあたっている。

■お問い合わせ 日本災害復興学会事務局 TEL 0798-54-6996 / E-mail office@f-gakkai.net

会場
アクセス

- JR福島駅(東北新幹線、東北本線、奥羽本線)西口より徒歩3分
- 東北自動車道 福島西IC、飯坂ICから車で約15分

[駐車場]

- ・コラッセふくしま有料駐車場(30分まで無料、以降30分毎100円)
※福島市共通駐車サービス券が使用可能
- ・近隣に民間の有料駐車場あり(30分100円から150円)



2012.10.6(土)▶8(月・祝)

会場 **コラッセふくしま ほか**

主催 日本災害復興学会 / 共催 福島大学

大会趣旨

東日本大震災から一年数ヶ月が経過しました。被災地では復旧・復興に向けた様々な取り組みが行われていますが、人々の暮らしを再建し地域を再生していく上ではいまだに多くの課題を抱えています。「みなし仮設住宅」の急増による住民の自治には大きな障壁が立ちほだかり、さらには広域避難や原子力災害などこれまでの災害復興の枠組みだけでは解決し得ない新たな課題も現れてきています。

本格的な復興に向け、いまだ多くの課題を有する現状においても、復興に向けて様々なセクターが協働し、「復興の主演」が真に被災者・被災地であるための努力が各地で始まっています。

今年は、一年数ヶ月を経た東日本大震災を中心に、「ふくしま」という地で日本災害復興学会を行います。ふくしまのみならず、これまでの災害復興の教訓、さらには各地の復興に向けた取り組みの成果と課題を持ち寄り、今後の災害復興のあり方について考えていきたいと思ひます。



学会代表あいさつ

日本災害復興学会 会長
関西学院大学 災害復興制度研究所 所長
関西学院大学 総合政策学部 教授

室崎 益輝

東日本大震災の発生から1年半が経過しようとしている。「前例のない災害」と言われるように、質においても量においても極めて深刻なダメージを受けただけに、そこからの復興は困難を極めている。その中で、復興への希望を失った被災者の悲鳴が、被災地の隅々から絶え間なく聞こえてくる。

ところで、この被災地の復興の遅れは、被災の特異性だけから来ているのではない。わが国の復興に関する法制度の不備や、復興に対する行政の取り組みの弱さが、復興の遅れと被災者の苦悩を招いているのである。さらにその背後には、復興を正しくリードすべき理論や政策の未熟さがあることを、見逃すわけにはゆかない。

私たちの災害復興学会は、この厳しい現実を真摯にそして自省的に受け止め、復興を少しでもよい方向に進めるために、理論と実践においてその責務を果たさなければならないと思う。災害復興学会が発足して迎える初めての巨大災害ということで、その歴史的使命が問われているといつてよい。

こうした中で、今年度の復興学会の大会を迎える。私たちは、現場に根差してということから、被災地の中で培ってきた豊かな経験を持っている。立場を超えてということから、分野や職能を超えて連携してきた実績を持っている。復興に対する熱い思いに加えて、これらの経験と実績を持ち寄り、被災地に希望を与える道筋を明らかにしなければならない。

今回の大会は、復興の途上にある被災地の福島で開催する。このことは、極めて重要な意味を持っている。それは、被災地や被災者の声を聞くという、復興の原点に立ち戻ることだからである。この大会は、開催地の福島大学のご尽力があってこそ実現することができた。素晴らしい場をつくっていただいたことに、心からのお礼を申し上げたい。



日本災害復興学会

テーマ **ふくしまへの帰還と再生**

10月6日(土) [会場] 福島県内

終日

エクスカージョン (要事前申込み)

A 川内村コース

- 集合 午前9時30分 (JR郡山駅西口前)
- 内容 郡山市内の仮設住宅・おだがいさまセンター(富岡町)を見学、川内村に移動・昼食後、村内を視察。
- 参加費 4,000円 (昼食代込み・当日支払い)



B 飯舘村・相馬・南相馬コース

- 集合 午前9時30分 (JR福島駅西口前)
- 内容 飯舘村の除染モデル事業などを見学、午後は相馬～南相馬市内の仮設住宅、津波被災状況などを視察。
- 参加費 4,000円 (昼食代込み・当日支払い)



●エクスカージョンお申し込み方法

申込アドレス excursion.fukko@gmail.com

あてに、次の項目をお知らせください。

- (1) 氏名 (2) 所属機関
- (3) 希望コース
【A: 川内村コース B: 飯舘村コース】
- (4) 連絡先 (携帯電話)

*両コースとも定員(各25名)に達した時点で申込みを終了させていただきますのでご了承ください。
*なお、催行人数(両コースとも10名)に達しない場合、変更の可能性がございますのでご了承ください。
*行程の詳細などは日本災害復興学会のホームページ (<http://f-gakkai.net/>) 内にて随時アップします。

*写真はイメージです

10月7日(日) [会場] コラッセふくしま5F

9:30
?
12:00

分科会① 復興人材
[会場] 研修室 AB

東日本大震災の後、多くの若者が被災地を訪れ、多種多様な活動を継続している。このような外部からの「復興人材」の活動の中から、住民による内発的な地域復興の取り組みを喚起するような実践の萌芽が生まれつつある。本分科会では、東日本大震災の被災地において活動する「復興人材」の背景や現状を共有し、「復興人材」の間の交流を図るとともに、地域復興に「復興人材」が果たすことが出来る役割について考える。

- 司会 宮本匠 (京都大学防災研究所 特定研究員)
- 話題提供者 東日本大震災被災地で活動する青年たち
- 参加被災地域
岩手県: 大船渡市、大槌町、北上市
宮城県: 気仙沼市、石巻市など
福島県: 富岡町など
- 共催 社団法人 中越防災安全推進機構

分科会② 復興まちづくり
[会場] 小研修室

東日本大震災における復興まちづくりの現状と課題について考える。今回は長期にわたり現地支援に携わる実務家からの報告をもとに、過去の災害復興やまちづくりとの比較、合意形成にむけた支援の方法、外部人材に求められる役割などについて議論を行う。

- 司会 福留邦洋 (東北工業大学)
- 話題提供者 野崎隆一 (神戸まちづくり研究所、専門家派遣事業により宮城県気仙沼市へ)
西尾久和 (西宮市から宮城県女川町へ)
國澤正明 (UR都市機構から岩手県山田町へ)
- コメンテーター 桜井誠一 (元神戸市生活再建本部次長、災害派遣隊として宮城県名取市へ)

12:00
?
14:00

ポスターセッション

[会場] 5F 小会議室 (501)

14:00
?
16:30

分科会③ 広域避難
[会場] 研修室 AB

原発事故による避難は、一部で帰郷が始まっているが、依然として全国各地への広域避難は6万人を超える。元の居住地に長期間帰還できない恐れがあることから、福島県内にセカンドタウンなどをつくらうとの提案もある。避難者を受け入れた全国の自治体の今後の対応は。

- 司会 所澤新一郎 (共同通信)
- 話題提供者 中村美紀 (山形避難者母の会)
市村高志 (とみおか子ども未来ネットワーク)
君嶋福芳 (とちぎ暮らし応援会運営委員)
津賀高幸 (東日本大震災支援全国ネットワーク)
田並尚恵 (川崎医療福祉大学)
山中茂樹 (関西学院大学)

分科会④ 生業・生活再建
[会場] 小研修室

被災者の雇用創出活動や復興グッズの企画販売による被災者の生業支援活動、あるいは被災地に新たな特産品を生み出そうとしている活動などを紹介する。併せて、現在の被災地における生業支援の意義、その限界や今後の課題について議論を深める。

- 司会 永松伸吾 (関西大学、CFW-Japan 代表理事)
- 話題提供者 川原康信 (@リアス NPO サポートセンター)
千葉孝弘 (気仙沼復興協会)
鈴鹿達二郎 (テラ・ルネサンス)
南部哲宏 (株式会社博報堂)
寺井良夫 (SAVE IWATE)
天野和彦 (おだがいさまセンター)
- 共催 一般社団法人 CFW-Japan

16:45
?
18:00

全体会議 各分科会からの報告
[会場] 研修室 AB

18:30
?
20:30

交流会 [会場] コラッセふくしま 12F
きいちご

10月8日(月・祝) [会場] コラッセふくしま

9:30
?
12:00

研究発表① 特定論題
[会場] 研修室 AB

研究発表② 自由課題
[会場] 小研修室

13:30
?
16:30

大会記念 公開シンポジウム

「ふくしまへの帰還と再生」
[会場] コラッセふくしま 4F
多目的ホール



おしらせ

- 予稿集 3,000円 当日会場受付時に実費にてお支払い下さい。

交流会 18:30~20:30

[会場] コラッセふくしま 12F きいちご
[参加費] 5,000円

日本災害復興学会ホームページ <http://f-gakkai.net/> の『日本災害復興学会 2012年度大会 参加申込用紙』にて、FAXまたはメールにて学会事務局宛にお申込下さい。参加費は当日会場受付時に実費にてお支払い下さい。

日本災害復興学会とは

災害復興学という学問領域は、まだ存在しません。私たちは簡単に「災害からの復旧・復興」と口にしますが、「復興」についての定義すら定かでないのです。

首都直下地震、東海・東南海・南海地震という巨大地震の発生を前に、私たちは東日本大震災の被災地の体験を共有し、教訓を紡ぎだして制度とし、社会の枠組みを捉えなおす作業を始めなければなりません。それがKOBEの

仲間たちが生み出した「被災地責任」なのだと考えます。しかし、ことは容易ではありません。壊れたまちを、ムラを、人生を再建するのは。私たち、災害復興学を志す者は単に座して研究するのではなく、被災からの再生に取り組む人々と手を結び、被災現場からのメッセージを全国に、次世代に伝え、やさしい社会を創りだすために力を尽くしたいと考えています。

入会等手続きについて

日本災害復興学会への入会のお申込みは、日本災害復興学会ホームページ <http://f-gakkai.net/> の入会申込書(Word)に所定の事項をご記入のうえ、日本災害復興学会事務局まで郵送にてお申込みください。

- 学会費 会費は全額前納となっております。年会費は以下の通りです。
1) 正会員 年額 7,000円 4) 賛助会員 年額 一口: 50,000円
2) 学生会員 年額 3,000円 5) 入会金 3,000円
3) 購読会員 年額 6,000円
- 振込方法 学会費の振り込みにつきましては、後日事務局よりお送りする郵便局振込用紙をご利用ください。

■ 問い合わせ先
日本災害復興学会事務局
TEL : 0798-54-6996 FAX : 0798-54-6997
〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町 1-155
関西学院大学災害復興制度研究所 気付
e-mail : office@f-gakkai.net